



森のなかま

2016年4月号

NO.96 (継続241号)

事務局が移転しました

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

森林文化講演会 『森に活かされる暮らし』
講師 澁澤 寿一 氏

2月7日(日) 参加者88名

< 森林文化部会 真貝 勝 11期 >

(写真撮影:高橋修◎)

例年恒例となっている森林文化講演会が2月7日(日)、澁澤寿一氏を招き桜美林大学 PFC(プラネット淵野辺キャンパス)P201 教室にて行われた。参加者は88名で、かながわ森林インストラクターの会員のほか、37名の一般参加もあった。

環境活動の目標として「持続可能な社会」という歌い文句に近い標語があるが、それを作り出すためには、ただ単に“森林を守る”とか“自然を守る”とか言うことではなく、関係性の再構築が必要である。森づくりを林業だけの問題としないうで、地域の人間の関係性づくりとすることが持続可能な社会には大切であることが主張された。



澁澤 寿一氏

講演では、時代と地域を対比することで説明が進行した。



現代の社会は、お金を介して生活が営まれている。経済と効率が優先され“お金”の世界の広がりが増えた。物は増え便利になった。生活は豊かになったのに、50代以下の若い世代の「不安」は増大してきている。現代は「頑張れば何とかなる」という時代では無くなった。頑張っても先が見えない時代、「安心」できるモデルがない時代となり、50代以下の若い世代の「不安」は増大してきている。

500年の森を守るには10世代とかの継続が必要だが、今の世の中ではそれができないシステムになっている。現代の社会は村の暮らしの“わずらわしさ”や“あたたかさ”を捨てて、つながりのない世界を作ってきてしまった。関係性の喪失した、個と個の無関係社会となってしまっている。

講演の中で、人と人、人と自然、世代間、地方と都市を繋ぐ関係性の再構築に関して繰り返し述べられていたのが印象的だった。その具体例として、自らが関わっている岡山県真庭市の実例が挙げられた。

会場風景



最後に、縄文時代から3万年続いた新潟のある小さな村の話がでた。そこで、持続可能な人間社会を維持するのに犠牲も必要だったという紹介があった。

今回の講演で“関係性の再構築”という持続可能な社会への糸口が示されたが、この問題の難しさも同時に示されて講演は閉会となった。

講師 澁澤 寿一氏 プロフィール：農学博士、NPO 法人 樹木・環境ネットワーク協会理事長、NPO 法人 共存の森ネットワーク理事長 他 環境教育、社会づくりの役職多数 (故 澁澤 栄一氏の曾孫)

緑の募金 かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。



“やどりきの森へ行こう 第3回” **ミツマタ&モモンガの棲む森散策** が開催されました。
場所:やどりき水源林、日:3月20日(日)、天候:曇り、募集参加者:52名
次回の“やどりきの森へ行こう”は5月21日です。(申し込み方法等は巻末8頁をご覧ください)

霧の中でのオリエンテーション



班毎の説明



雨上りの水溜りを避けて出発



フサザクラに何かを見つけたようです。ウスタビガの繭でした!



もう少しで到着です。回りにはミツマタが見えてきました。(写真右端)



サア-登りスタート



目的地(成長の森)登り口の案内板前の説明



川を渡り



ミツマタの群落へ



ミツマタ群落の中をかき分けて



目的地到着(成長の森 20、21 年度)



写真には入りきれないミツマタの群落です

そしてモモンガの樹洞 (昼間で登場しませんでした) 洞を見上げる皆さん



(取材 広報 松本)